カラフル！インドネシア2

2017
1.25(Wed)—1.28(Sat)

東京国際映画祭 CROSSCUT ASIA 提携企画

会場：アテネ・フランセ文化センター[御茶ノ水]

第29回東京国際映画祭「国際交流基金アジアセンター presents CROSSCUT ASIA」で好評を博した「カラフル！インドネシア」が帰ってきました。
古典から日本初上映を含む若手作家の注目作、音楽ドキュメンタリーまで、多様なインドネシア映画を、女性プロデューサーメイスク・タウリシアとともにセレクション。新たな切り口で紹介します。

エディ・チャフヨノ（『SITI』監督）
メイスク・タウリシア（プロデューサー）

Colorful! Indonesia

『三人姉妹』（デジタル修復版）*Tiga Dara* 1956 ／『9808－インドネシア民主化10年目のアンソロジー』*9808 Anthology of 10th Year Indonesian Reform* 2008
『禁断の扉』*Pintu Tarlang* 2008 ／『SITI』*SITI* 2014 ／『White Shoes & The Couples Company in Cikini』*White Shoes & The Couples Company di Cikini* 2016
《インドネシア短編映画傑作選》（計101分）マリアム *Maryam* 2014 ／虎の威を借る狐 *The Fox Exploits the Tiger's Might* 2015 ／申年 *Prenjak* 2016／恐怖の起源で *On the Origin of Fear* 2016
メモリア *Memoria* 2016 ■主催：国際交流基金アジアセンター、アテネ・フランセ文化センター ■特別協力：東京国際映画祭 ■協力：福岡市総合図書館 逗子海岸映画祭

カラフル！インドネシア2

東京国際映画祭 CROSSCUT ASIA 提携企画

近年では日本でもフィリピンやベトナムなどの東南アジアの映画が多く上映されるようになったが、インドネシアもその文化的な多様性に負けず、魅力あふれる作品が多数製作されている映画大国である。昨秋の東京国際映画祭 CROSSCUT ASIA の「カラフル！インドネシア」では紹介しきれなかった、インドネシア映画たち。「インドネシア映画の父」ウスマル・イスマイルから、現代のインドネシア映画を牽引している若手映画監督たちまで、ジャンルや時代を越え、インドネシアを映し出す作品を一挙上映する。

- 『禁断の扉』は35mm上映、その他全てデジタル上映
- 全作品日本語字幕付き
- 1月28日（土）のシンポジウムはどなたでもご参加いただけます（入場無料）

「国際交流基金アジアセンター presents CROSSCUT ASIA」とは？

東京国際映画祭の新たな部門として2014年に創設された「CROSSCUT ASIA」では、アジアの国、監督、俳優、テーマなどに焦点を当て、アジアの現在（いま）を鋭く切り取った珠玉の映画を特集しています。2014年「魅惑のタイ」、2015年「熱風！フィリピン」に続き、2016年は「カラフル！インドネシア」で、短編含む11作品を上映しました。**国際交流基金アジアセンター web サイト　http://jfac.jp/culture/**

三人姉妹（デジタル修復版）

Tiga Dara | The Three Sisters

1956年｜115分｜デジタル
監督：ウスマル・イスマイル
出演：チトラ・デウィ、ミカ・ウィジャヤ、インド リアティ・イスカック

母を早くに亡くし、父と祖母に育てられたヌヌン、ナナ、ネニーの美人三姉妹。祖母と父は長女ヌヌンを早く結婚させようと企むが…。社会派監督だったイスマイルが、ハリウッドからヒントを得て製作したミュージカル映画。2016年にはニア・ディナタ監督によって本作のリメイクが製作され、東京国際映画祭 CROSSCUT ASIA で上映された。

9808 ―インドネシア民主化10年目のアンソロジー

9808 Anthology of 10th Year Indonesian Reform

2008年｜115分｜デジタル
監督：ウィスヌ・スルヤプラタマ、ウチュ・アグスティン、オッティ・ウィグサリ、スティーヴ・ピラー・スティアブディ、ハフィズ、ルッキー・クスワンディ、アングン・プリアムボド、イファ・イスファンシャー、エドウィン、アリアニ・ダルマワン

1998年5月に起きたジャカルタ暴動、そしてスハルト政権崩壊から10年の節目に、10人の映画監督、アーティスト、ミュージシャンなどがそれぞれの観点から短編を製作し、アンソロジーとしてまとめたもの。7つのフィクションと3つのドキュメンタリーから構成される。釜山国際映画祭やロカルノ映画祭で上映され、話題となった。

禁断の扉

Pintu Tartarang | Forbidden Door

2009年｜115分｜35mm
監督：ジョコ・アンワル
出演：ファクリ・アルバル、マルシャ・ティモシィ、アリオ・バユ
プリント提供：福岡市総合図書館

彫刻家のガンビルは、仕事も私生活も充実した日々を送っていた。ある日、「助けて！」と書かれたメッセージを自宅で発見。そのメッセージを追うと、会員制のクラブへとたどり着く。そこには決して開けてはいけない禁断の扉があった…。鬼才、ジョコ・アンワルが、インドネシアのベストセラー小説を映画化したサイコホラー。

SITI

SITI

2014年｜88分｜デジタル
出演：チェルシー・ベッティド、ティティ・ディビオ、デリア・ヌスワントロ

エディ・チャフヨノの長編2作目。半身不随の夫と息子、そして義母を養うために、昼は海でスナックを売り、夜はカラオケのホステスとしてがむしゃらに働くシティ。だが、夫は口を閉ざし、どんなに献身的に尽くしてもシティを拒む。シンガポール国際映画祭をはじめ、国内外の多くの映画祭で上映、受賞した必見の作品。

White Shoes & The Couples Company in Cikini

White Shoes & The Couples Company di Cikini

2016年｜84分｜デジタル
監督：ヘンリー・ファウンデーション
出演：White Shoes & The Couples Company

ジャカルタで2002年に結成された、気鋭のポップグループ White Shoes & The Couples Company。彼らのチキニでのライブを追ったドキュメンタリー。インドネシアの伝統音楽を組み込んだ斬新でポップなスタイルは、インドネシア国内のみならず米国、日本でも話題となった。彼らを知らなくても楽しめる一本。

[インドネシア短編映画傑作選]

マリアム

日本初上映

Maryam

2014年｜17分｜デジタル
監督：シディ・サレー

敬虔なムスリムのマリアムは、自閉症患者の面倒を見ている。クリスマスに教会に行きたいと頼まれた彼女は、しぶしぶ了承する。キリスト教のミサの中で彼女は自身の信仰と対峙し葛藤する。ヴェネツィア国際映画祭オリゾンティ部門で受賞。

虎の威を借る狐

The Fox Exploits the Tiger's Might

2015年｜25分｜デジタル
監督：ルッキー・クスワンディ

軍高官を父に持つデヴィッドと酒やタバコを密売する華人の家庭に育ったアセン。軍事基地のある田舎町を舞台に、二人の少年は性に目覚めていく。『マダム X』や『太陽を失って』のルッキー・クスワンディの注目の短編。カンヌをはじめ、多くの映画祭で上映された。

申年

日本初上映

Prenjak / The Year of Monkey

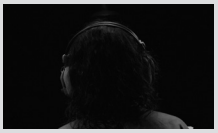
2016年｜12分｜デジタル
監督：レガス・バヌテジャ

女性が男性にマッチの炎を使って陰部を見せ小金を稼ぐという、80年代から90年代にかけてジョグジャカルタで行われていた出来事をもとに、舞台を現代に移し、翻案した作品。カンヌ批評家週間でLeica Cine Discovery賞を受賞した。

恐怖の起源で

日本初上映

On the Origin of Fear



2016年｜12分｜デジタル
監督：バユ・プリハントロ・フィレモン

カメラマンとして活躍していたバユ・プリハントロ・フィレモンの監督デビュー作。一人の男が録音室で、拷問する者とされる者を演じ分ける。やがて、男は現実との境が曖昧になり、歴史の悲劇を呼び起こす。ヴェネツィア国際映画祭オリゾンティ部門で上映。

メモリア

日本初上映

Memoria

2016年｜35分｜デジタル
監督：カミラ・アンディニ

東ティモール独立運動の闘争中に性的暴行を受けたマリア。一方、娘は結婚することによって我が身を守ろうとしていた。母娘の目を通じ、女性の自由を問いかける野心作。2016年に岩波ホールで公開された『鏡は嘘をつかない』のアンディニ監督最新作。

1月25日（水）
- 13:50 **短編映画傑作選**（計101分）
- 16:00 **『三人姉妹』**（115分）
- 18:30 **『9808』**（115分）

1月26日（木）
- 14:30 **『White Shoes ～』**（84分）
- 16:30 **『SITI』**（88分）
- 18:30 **『禁断の扉』**（115分）

1月27日（金）
- 14:00 **『9808』**（115分）
- 16:30 **『禁断の扉』**（115分）
- 19:00 **『White Shoes ～』**（84分）

料金

一般＝1300円
学生／シニア＝1100円
3回券（一般、学生／シニア共通）＝2700円
アテネ・フランセ文化センター会員＝800円
■各回入れ替え制

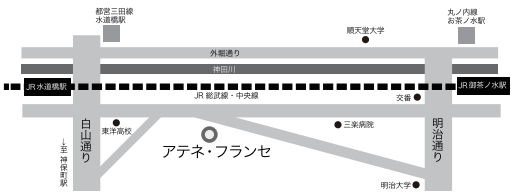
1月28日（土）
- 12:00 **『三人姉妹』**（115分）
- 14:30 **短編映画傑作選**（計101分）
- 16:40 **『SITI』**（88分）

18:10 シンポジウム（入場無料・予約不要）90分予定

ゲスト：エディ・チャフヨノ（『SITI』監督）
メイスク・タウリシア（プロデューサー）
モデレーター：クリス・フジワラ（映画批評家）
通訳：藤岡朝子（山形国際ドキュメンタリー映画祭理事）

JAPANFOUNDATION 国際交流基金
ATHÉNÉE FRANÇAIS CULTURAL CENTER
アテネ・フランセ文化センター

お問い合わせ・会場
アテネ・フランセ文化センター
TEL. 03-3291-4339（13:00-20:00）
http://www.athenee.net/culturalcenter/
infor@athenee.net



JR御茶ノ水・水道橋駅から徒歩7分
東京都千代田区神田駿河台2-11　アテネ・フランセ4F